

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:26～27.

リンパ浮腫指導技能者の役割～当院におけるスタッフ教育の取り組み～

脇坂亜季、中村智美、小山内美智子

リンパ浮腫指導技能者の役割 ～当院におけるスタッフ教育の取り組み～

外来ナースステーション 協坂 亜希、中村 智美、小山内美智子

I. 緒言

2008年度診療報酬改定により、リンパ浮腫指導管理料の新設と弾性着衣が療養費として認可され、リンパ浮腫への関心は高まり、治療に取り組む環境が整備され始めた。リンパ浮腫指導は専門的知識と技術が必要とされるため、リンパ浮腫指導技能者の役割に期待が高まっている。今回、リンパ浮腫指導技能者としてリンパ浮腫指導に必要な知識・技術の普及とリンパ浮腫外来の整備に向けてスタッフ教育に取り組んだため報告する。

II. リンパ浮腫指導の現状

当院外来でのリンパ浮腫指導は、外来看護師が2006年からマンマ外来・弾性ストッキング外来の中で、複合的理学療法の指導を医師の診察後に部分的に実施してきた。(H20年度は上下肢合わせて100名に指導した)しかし、在院日数の短縮による外来患者数の増加に伴い、時間・人員・場所の確保に苦慮しながら指導してきた。又、リンパ浮腫の知識や複合的理学療法など専門的な知識・技術を習得している看護師は少なく、指導方法も統一されていなかったため、効果的な指導が行えていなかった。

リンパ浮腫指導を複数の外来看護師が同じレベルで安全に実施出来るように教育していくことが必要であった。

III. スタッフ教育の内容

1. リンパ浮腫指導に必要な知識・技術の提供 (外来看護師を対象に講義・演習をした)
2. 個別指導 (リンパ浮腫外来担当者10名を対象)
3. リンパ浮腫外来を想定した、指導シミュレーション
実施期間：2008年6月～2009年5月
倫理的配慮：研究の概要と研究の目的、プライバシーを保持することを説明し、研究協力の同意を得た。

IV. 実践結果

1. リンパ浮腫指導に必要な知識・技術の提供
 - 1) 実施方法
リンパ浮腫の病態・生理、リンパドレナージ、圧迫療法(バンテージ)の3部構成で講義と演習を行った。延べ38名が参加した。
 - 2) 指導内容

講義は1回90分とし、以下の内容で実施した。

- ・リンパ浮腫の病態、生理
- ・複合的理学療法の目的や方法、施行時の注意点や禁忌など
- ・日常生活の注意点

演習は1回90分とし、以下の内容で実施した。

- ・リンパドレナージ
- ・圧迫療法(バンテージ)

リンパドレナージは、「実際にどの程度の圧でドレナージをするのか」、「ドレナージする方向や場所」に重点を置き、理論も交えて手本を見せながら指導した。バンテージは、「実際にどの程度の圧をかけながら包帯を巻いていくか」に重点を置き、手本を見せながら指導した。

3) 理解度の確認

講義・演習終了後、参加者にアンケート調査を行った。病態・生理95%、リンパドレナージ100%、圧迫療法(バンテージ)93%が「理解できた」・「少し理解できた」と回答した。

リンパドレナージの演習では、「実際どのくらいの圧でドレナージをしているのかわかって良かった」、「理論と実技が一致して良かった」という意見がある一方、「すぐに自分が実践するのは難しい」という意見が多かった。

バンテージの演習では、「イメージだけでは指導出来ないため練習が必要」などの意見が多かった。

2. 個別指導

1) 実施方法

リンパドレナージとバンテージの個人トレーニングを5回ずつ行った後、指導者による評価を実施した。

リンパドレナージやバンテージは手順や圧の加減が難しいため、何度も出来るようになるまでフィードバックしてもらった。

2) 評価内容

リンパドレナージとバンテージを実際に実施してもらい、「基本的な手技・手順について実施できている」かを中心に評価した。

3. リンパ浮腫外来を想定した、指導シミュレーション
今回作成した教材(DVD、パンフレット)を元に、指

導マニュアルの作成を行った。又、作成した教材やマニュアルを使用して指導シミュレーションを行った。

V. 考察

1. リンパ浮腫指導に必要な知識・技術の提供

講義・演習後のアンケート調査で「理解できた」「少し理解できた」と答えたスタッフが多く、講義と演習はリンパ浮腫指導に必要な知識・技術の提供に有効であったと考える。

2. 個別指導

リンパドレナージとバンデージは手技が難しく何度も練習が必要だという意見があり、知識や技術の伝達だけではなく、個別に具体的な内容でトレーニングと評価をしたことは、スタッフの不安が軽減し、安全に患者指導が出来るようになるために有効であったと考える。今後もスタッフが自信を持って患者指導が出来るようにサポートしていく役割が示唆された。

3. リンパ浮腫外来を想定した、指導シミュレーション

教材やマニュアルを使用した指導シミュレーションは、指導に関わる看護師が同じレベルで統一した指導が出来るようになるために有効であったと考える。又、指導する側の意識も向上と、リンパ浮腫指導に関する知識が深まった。

VI. 結論

リンパ浮腫指導技能者がロールモデルになることで、リンパ浮腫に関する専門的知識・技術を習得するだけでなく、スタッフが自信を持って患者指導が出来るように継続したフォローアップをする役割がある。

今後も、リンパ浮腫指導技能者としてリンパ浮腫に関する知識・技術の普及と、リンパ浮腫外来の整備やスタッフ教育に継続して取り組んでいく。

参考文献

- 1) 作田裕美：質の高いリンパ浮腫ケアの提供に向けて、看護技術, vol. 54, No.10, p1057～1063, 2008-9
- 2) 井上エリ子, 他：リンパ浮腫療法, 看護技術, vol. 54, No.5, p502～510, 2008-4.